



Title	都市化と衛生害虫
Author(s)	辻野, 直三郎
Citation	makoto. 1977, 19, p. 2-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86178
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

都市化と衛生害虫

財団法人 大阪防疫協会

理事長 辻 野 直三郎

高度経済成長時代の対策として、当時各種産業の振興は実に目覚ましいものがあつた。その社会的構造の道程において必然的に各都市への人口集中現象をきたし、その結果各都市の過密化は急激に進行した。もとより、この時点における都市構造はその基盤が軟弱であり、且つまた環境整備の点からも諸々の問題点があつた。

このような体制下にあつての人口集中現象であつたので、都市が健全であるための必要条件つまり市民生活の正常性、バランスよくそのものが保たれているかなどは第二の問題とされ、一次的に産業優先というべき時代であつた。いわゆる宅地、工場地、などの乱開発が生れてきた。都市が市民生活の正常化を具体的に保障することは、それが都市環境としていかに整備され、いかに有効且つ機能的に働いているかが問題視せられる。

ものである筈であるにかかわらず？……

さて都市環境とは一般に人間生活活動を支える外的状況であるといわれているが、また一面内部的要素をも含まなければならぬことは当然といえよう。それ故に都市環境によつて人間生活が変るのは当然であり、これにまつわる衛生害虫をも含む諸動・植物の変遷もまた然りである。

衛生害虫は人の生活環境と密着した生態をもつから都市化の関連はこのような外的変化だけに止まらない。そこでわれわれとしては居住地域の環境変化と居住構造の変化の二つの流れを考える必要がある。

例えば、都市河川のユスリカ類、造成地のマルカメムシ、ウリハモドキ、ゴミ埋立地のハエ、ヤスデ、ネズミ、カラス、トビの多発が見られる。

自然環境と人為環境の境界に

おいて人と自然型動物と接触頻度が高まり、カメムシ、ハツカネズミ、アリ、ヤスデ類の家屋内に多数侵入した例も起きている。また一方雑居ビル、地下街の出現は従来の単一家屋が集合巨大家屋化したことを意味し、完全空調と相まって、ドブネズミ、クマネズミ、ゴキブリ類の多発を呼んでいる。

一般家屋について考えるとD・K、冷蔵庫の普及が台所を常時温暖化させ、食品害虫、コナダニ類を多発に導き高層アパートでは家屋が共通して、ゴキブリ、ハツカネズミ、チカイエカ、チョウバエの分布拡大を助けている。

一方建築工法の変化、建材の変化により屋内を多湿化して畳をコナダニ、チャタテムシの発生源としている。殊に南洋材の増加はそれを好食するヒラタキタイムシを多発させている。

造成地、埋立地等の排水不良、

また多湿化によりシロアリの被害を増大させている。また一方製材の簡速化は樹木害虫がそのまゝ建材害虫となり、省力化した建築工法は腐食を好む昆虫類にしばしば発生源としてその場を与えている状況である。

このように都市化が進めばそのバランスにより種々の衛生害虫を含む昆虫類とのふれあいに接することは必然的に多くなることである。

これらのふれあいをなくするためにその施策として生活意識の変化を求めてきた。このなかで最たるものに衛生思想の向上があげられる。

これは被害意識の増加に結びつき不快昆虫の多発に起因しているが、一方生活機能の変化として生活防衛のための害虫駆除体制及び技術の向上へと運動されていく結果となつた。

この駆除体制は従来から市町村衛生班ならびに住民の地区組織活動によつて推進されてきたが前記のような地域社会の変容により、これまでの駆除体制だけでなく、ねずみ、衛生害虫防除業者を加えて一段と強化し今日に及んでいる。

これらの業者は社団法人日本ベストコントロール協会（略称

日本PCO協会）として自主管理を行い登録制度を設け、また「防除業務標準仕様書」を設定して事業の推進を行い社会の負託に応えんとしている。

この業務標準仕様書は私が日本PCO協会理事長時代に委員会を設置して一年近くかり作成したものであり、また、使用薬剤についてもその後安全性の面から社会情勢に対応して殺虫剤使用に質的変換が行なわれたことも当然のことであろう。

以上のように高度経済成長時代により人口の都市集中が急激に行なわれた結果特に衛生害虫等の生態変化が顕著に現われたことは見逃すことの出来ないことである。その起因となつたものは、ことごとく人自らの手によつて生みだしたものと云つても過言ではあるまいか？

従つて都市工学、建築学、あるいは教育の場において衛生動物学の役割はこんぐ更に一層その重要度を加えるものと信じその将来の発展を期待するものである。

乞うご叱正を

◎ 美事なり垣根に

咲いた鉄線花